

令和7年3月25日

令和6年度修了式あいさつ

- みなさん、おはようございます。校長の都丸です。
- 本日は、令和6年度の修了式です。みなさんは、この令和6年度はどのように過ごしたでしょうか。
- どのような計画で目標達成に向かったのでしょうか。そしてその計画で目標の達成ができたでしょうか。
- 目標が達成できたという人は、素晴らしいことです。是非、さらにステップアップさせて、次の年度の目標を定め、そのための計画を練ってもらいたいと思います。
- 目標達成ができなかった人、なぜ、達成できなかったのか、何か無理があったのかなど、振り返って計画を見直してみてください。そして、しっかりとつぎに向けて考えてみてください。
- さて、3月4日にみなさんの先輩方の卒業式を行いました。今年度の卒業証書授与式は、体育館が耐震工事で使用できなかったため、教室を使用して行いました。とっても素晴らしい、感動的な式になりました。
- 何が素晴らしかったのかといいますと、体育館が使用できないという環境で、ほとんどの学校は、他の施設を利用して行うことになると思います。もちろん、そうした式でも素晴らしいものになります。
- しかし、今回、霧が丘高校では、自分たちが過ごした学校で卒業式を行いたいという気持ちがあり、その思いが先生方の気持ちを動かし、卒業生と先生方が一丸となって、試行錯誤の上、会議室をメイン会場とし、各教室での卒業証書授与という方法で挙行することになりました。
- 式の方法ももちろんですが、何よりも「無理かも」や「難しいよね」といった諦めることなく、何とかやってみようという一歩を踏み出し、気持ちが一つになったことで創意工夫につながり、素晴らしいものを作り出したのだと思っています。
- 卒業生は、入学から仮設校舎で、最上級生になった時には体育館の耐震工事と、その時々の変化した環境の中で、様々なことを考え、悩み、工夫してきたと思います。そのことが旅立ちの日に、成果として現れたような気がします。もちろん、先生方も含めてです。
- 当日は、卒業生はもちろんですが、担任や支援担任、学年の先生方、会場担当の先生、廊下での誘導・警備班の先生、撮影班の先生、受付や救護班の先生方、いつもより時間はかかりましたが、それぞれの役割に自覚と責任を持ち、みんなが一丸となって、式を成功させようと全力で取り組んだこと、このことが感動的でした。

- みなさんは、どうでしょうか。自分自身に諦めはないでしょうか。最初から「できないから」と思っていないでしょうか。
- 卒業生に対し、私からののはなむけの言葉として今年は「自分にまけない」という言葉を贈りました。

最初からあきらめることなく、何事にもチャレンジしてもらいたいと私は思っています。みなさんには、まだまだ多くの可能性があります。是非ともあきらめることなく、自分にまけずに、前に進んでももらいたいと思います。
- 最後になりますが、今年度のスタートの私からのあいさつで、オリンピックの話させていただき、その際に、みなさんには「インクルーシブな学校づくり」に関わってもらいたい、何か、自分自身の、自分なりのインクルーシブな取組みを考えてもらいたい」ということお願いしました。
- どうでしょうか。今年は、乙巳（きのとみ）です。「努力を重ね、物事を安定させていく」といった意味があります。次年度に向けて、是非とも、しっかりとした目標を持ち、インクルーシブな学校づくりに取り組んでももらいたいと思います。
- それでは、4月4日の始業式でまたみなさんと笑顔で、お会いすることを楽しみにしています。